

中国語を母語とする日本語学習者の発音習得に関する研究

末延, 麻子
九州大学大学院地球社会統合科学府

<https://doi.org/10.15017/2348683>

出版情報 : 地球社会統合科学研究. 11, pp.37-45, 2019-09-25. Graduate School of Integrated Sciences for Global Society, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

中国語を母語とする日本語学習者の発音習得に関する研究

スエ ノブ マ コ
末 延 麻 子

1. はじめに

第二言語を学習する際、学習者によって習得度に差が出る。ある学習者は母語話者のように発音できるが、ある学習者には母語のなまりが残っていることもある。このような学習者の発音習得を左右するのは、様々な「要因」の違いではないだろうか。個人差に影響を与える要因といえば、「言語適性 (language aptitude)」、「学習開始年齢」、「母語」、「目標言語が話される国での滞在期間」、「性格」、「学習動機」、「学習環境」、「学習ストラテジー」、「使用する教材」、「教師」など、様々なものがある。

言語適性は、「第二言語を学習するのにどれだけ適した学習者であるかという生来の素質」と定義され、発音能力の適性に関しては、「学習者が第二言語の新しい音を識別し、それを記憶できる能力」(Caroll, 1965)とされている。言語適性があり、「発音模倣能力 (無意味語を模倣する能力)」(河野, 2014)が優れている学習者は、母語話者に近い発音ができる。しかし、この言語適性は生まれ持ったものであり、自分の力で変えることが難しいものである。学習開始年齢や母語にも同様のことが言えるだろう。

学習開始年齢については、6歳前後に学習を開始した場合はネイティブレベルの発音が可能で、12歳以上で学習を開始した場合はなまりが残ってしまう、という「臨界期仮説」に基づき、早期に学習を始めた方が効果が高いと言われている。学習開始年齢が第二言語の発音習得に大きな影響を与えるのは確かだが、思春期以降に学習を始め、「ネイティブレベル」の発音を習得したという研究 (Moyer, 1999; Bongaerets, 1999; 戸田2006) もある。このようなネイティブレベルの発音を習得した学習者は、共通した特徴を持っており、彼らを「学習成功者」としてその特徴を研究したものもある (竹内, 2003)。

日本語学習者の発音習得 (アクセントやイントネーション習得も含む) については多くの研究が行われており、発音習得度が高い学習者のストラテジーや学習動機に注目したもの (小河原, 1997; 呉ら, 2016) や、学習者の母語別に日本語の発音習得の研究を行ったもの (戸

田, 1999; スイリボンパイブーン, 2008; 谷部ら, 2010; 劉, 2010) などがある。しかし、発音習得の個人差に影響を与える要因は上に述べた通り、実に多岐に渡るものであり、それぞれの個人要因についてさらに詳しく分析する必要があると考える。

2. 本研究の目的

本稿では、2度行った予備調査の結果及び問題点、その問題点を踏まえて作成した本調査の内容について述べる。上述した「学習開始年齢」、「言語適性」については調査の対象とせず、調査対象者は「母語」を統一して中国人日本語学習者 (以下、CJL) とする。予備調査1では、「学習ストラテジー」に焦点を当てて調査を行い、予備調査2では、「発音に対する考え方」を加えて調査を行った。

3. 予備調査

3.1 調査内容

調査は、発音学習に関するアンケート及び音声タスク (文・文章・会話文) を用いて行う。音声タスクの評価は、母語話者によるものである。

3.2 調査対象者

調査対象者について、以下の表1に示す。日本語レベルについては、全員N1に合格している。

表1

調査項目	日本語学校	大学・大学院	計
アンケート	10	10	20
音声タスク	2	2	4

また、音声タスクの母語話者評価は日本語母語話者3名 (全員福岡県出身) が行った。

3.3 アンケートについて

アンケートは小河原（1997）を参考にした発音学習ストラテジーに関するもので、「テープレコーダー」などの現在あまり一般的ではないものが含まれる項目や、重複していると考えられる項目を削除したものを使用した。また、CJL7名に聞き取り調査を行い、新たな発音学習ストラテジーを追加したところ、全39問になった。それぞれの質問に対し、「はい」または「いいえ」で答えるものである。

アンケートは、CREATIVE SURVEYというwebアンケート作成ツールを利用して作成し、調査対象者が自由に回答できるようにした。

3.4 音声タスクについて

音声タスクは、文・文章・会話文の3種類である。文タスクは国立国語研究所で2002年～2005年に行われたe-Japan戦略対応事業の一環として作成された発声発語訓練例文集のうち、「中国人日本語学習者のための例文100」から11文を選んだ。文章及び会話文タスクは、2010年度日本留学試験の聴解問題のものである。

音声タスクの録音を行う協力者は、アンケート調査対象者の中から所属別にランダムに2名ずつ選んだ。録音は1文ずつ分けて行い、会話文の録音の際は2名ペアで役割分担し、2回に分けて録音を行った。

音声タスクの母語話者評価は、3名の日本語母語話者（福岡県出身）が以下の評価項目（張, 2015を参考）について、1適切でない、2どちらかという適切でない、3どちらかという適切、4適切、の4段階評価で行った。

a) 単語とアクセントについて

- ・単語の発音は正確か
- ・清音と濁音の違いはないか（金と銀のような間違い）
- ・単語のアクセントは自然か（雨と飴のような間違い）

b) イントネーションについて

- ・強調するべきところと、そうでないところを正しく区別できているか
- ・文節の最後に不要な上げ下げがなく、自然か
- ・高低は適切か（ずっと同じ高さで話していたり、急に高くなったりしていないか）
- c) リズムについて
- ・拍の数に増加・減少はないか（東京をトキョ、奈良をナラなどのように言っていないか）
- ・言いよどみ以外で、区切りの仕方は適切か

- ・途中の言いよどみは少ないか

d) 総合評価

- ・全体として意思疎通に問題はないか

3.5 結果

3.5.1 発音学習に関するアンケートの結果

最も多く使用されていたストラテジーは、以下の4つである。対象者20名のうち、18名が使用していた。

- ① イントネーションに気をつけて発音する。
- ② 日本人の先生が、発音についてのアドバイスや説明をした後、それを意識する。
- ③ 日本人の先生の発音を真似する。
- ④ 下手だと思ったり、間違えたと思ったりしたら、言い直して発音する。

一方、使用する人が最も少なかったストラテジーは、「ニュースなどの発音をシャドーイングする」であった。同様にシャドーイングに関する項目に「アニメやドラマ、映画などの発音をシャドーイングする」というものがあり、こちらを選択した学習者の方が多かった。シャドーイングという方法より、「何を使ってシャドーイングするか」という点が重視されていると考えられる。

3.5.2 音声タスクの母語話者評価の結果

母語話者評価の結果を、以下の表2に示す。学習者Aは、文と会話文における評価点が非常に高かった。

表 2

学習者 / タスク	文	文章	会話文
A	3.8	3.7	3.6
B	3.6	3.4	3.4
C	3.4	3.4	3.4
D	3.2	3.1	2.9

アンケート調査の結果と併せて分析してみると、学習者Aのみが使用していたストラテジーは以下の4つだった。

- ① 発音の教材や参考書を読んだり、利用したりする。
- ② 自分の発音を録音して、それを聞いて練習する。
- ③ 大きな声ではっきりと発音するように意識する。
- ④ アクセントが分からなかったら、辞書などで正しいアクセントを調べて確認する。

学習者Aの発音に対する強い関心が現れており、他の3名の学習者よりも発音に焦点を当てて学習を行なっていることが分かった。また、4名のうち最も評価点の平均が低かった学習者Dは、使用する学習ストラテジーの数が最も多く、次に学習者A、C、Bの順に多かった。このことから、使用するストラテジーの数と発音習得度

とは大きな関連がない可能性があることが予想される。

4. 予備調査2

4.1 調査内容

2回目の予備調査では、発音学習ストラテジーに関するアンケートに加えて、発音に対する考え方に関するアンケートも併せて行なった。音声タスク調査は行わなかった。

4.2 調査対象者

調査対象者について、以下の表3、表4に示す。

表3

日本語レベル	N1以上・高度な日本語	N1合格	N2合格	計
人数	6	21	4	31

表4

所属	博士課程	修士過程	研究生	日本語学校	大学・その他	計
人数	6	7	4	4	10	31

4.3 アンケートについて

アンケート調査は、予備調査1と同様CREATIVE SURVEYを用いて作成し、対象者がURLからアンケートに回答できるようにした。アンケート項目は全て合わせて56項目あり、個人情報に関する項目が12項目、発音学習ストラテジーに関する項目が37項目、発音に対する考え方に関する項目が12項目である。発音学習ストラテジーに関する項目は、小河原(1997)を参考に加筆修正し、発音に対する考え方に関する項目は、戸田(2006)を参考に作成した。

発音学習ストラテジーに関する項目は、それぞれの質問に「とても思う、思う、あまり思わない、思わない」の4つから選択し、発音に対する考え方に関する項目については、「よくする、する、あまりしない、しない、以前はしていたが今はしない」の5つから選択するものである。

4.4 結果

発音に対する考え方に関するアンケート結果をまとめると、以下のように考えている学習者が多いことが分かった。

- ① 発音の上達のためには教師が必要である。
- ② 母語話者のように話すことは重要である。

③ 日本人の発音と同じだと思われたい。

④ 友達を作る上では問題にならないが、就職などを考えると発音が上手な方が良い。

母語話者の発音に近づきたいと考えている学習者が多いことが分かった。また、4つ目については友達を作ることや就職以外にも、発音が上手な方が良いと感じる場面があるという意見があり、アンケート項目に加える必要がある。

次に、発音学習ストラテジーについて、使用する人が多かった5つの項目を、使用する人数が多かった順に示す。

- ① 周りの日本人の発音を真似する。(27名)
- ② 日本人の先生が発音についてのアドバイスや説明をした後、それを意識する。(26名)
- ③ アクセントに気をつけて話す。(25名)
- ④ イントネーションに気をつけて話す。(25名)
- ⑤ 下手だと思ったり間違えたと思ったら、言い直して発音する。(25名)

一方、使用する人が最も少なかった項目は、「自分の発音を録音して、それを聞いて練習する」というストラテジーだった。また、シャドーイングに関する2つの項目に関しても使用していない学習者が多かった。予備調査1でも類似の結果が出ており、使用する学習者が最も少なかったストラテジーは「ニュースなどの発音をシャドーイングする」であった。戸田(2006)は、学習成功者の特徴として「音声化した発音学習方法を実践し、継続していること(pp.65-66)」を挙げており、今回の調査で使用する学習者が少なかったストラテジーは、発音習得度が高い学習者が使用するストラテジーであったということが分かった。

しかし、「ニュースなどの発音を真似する」、「アニメやドラマ、映画などの発音を真似する」という「シャドーイング」ではなく「真似する」ストラテジーを使用する学習者は比較的多かった。1つ目に挙げた項目については、周りの日本人以外にも真似したり発音の参考にしたりするものがあるという意見があり、調査項目に加える必要がある。これに関連して、シャドーイングしたり真似したりするために使用するものも学習者によって異なる可能性が示唆され、本調査では調査項目を変更することにした。

5. アンケートの改善点及び本調査で使用するアンケートについて

予備調査1、2を通して見つかった問題点や追加すべき項目などを以下に示す。

- ① 調査対象者は中国語母語話者であるので、アンケートは中国語表記にする。
- ② 中国語には様々な方言があり、方言により習得しにくい発音などもあるため、学習者の使用方言についても質問項目に加える。
- ③ 日本語を学習した機関によって発音習得に差が出る可能性があるため、学習機関についても項目に加える。
- ④ 発音学習の際に使用するもの（教科書や日本のドラマなど）について詳しく質問し、その利用方法についても追加する。

これらの点を踏まえ、最終的に作成したアンケートの質問項目は全51項目で、個人情報に関する項目は16、発音に対する考え方に関する項目は11、発音学習ストラテジーに関する項目は24である。なお、本調査ではgoogleドライブで作成したwebアンケートを用いて調査を行う。本調査で使用するアンケートを資料として巻末に添付する（様式や項目数はgoogleドライブとは異なるが、質問項目は同様のもの）。実際の調査では使用しないが、アンケート項目は全て中国語表記であるため、中国語表記のアンケートの後ろに日本語訳版アンケートも添付する。

参考文献

- 小河原義朗（1997）「外国人日本語学習者の発音学習における自己評価」『教育心理学研究』 第45巻第4号,72-82
- 河野俊之（2014）『日本語教師のための TIPS 77 第3巻 音声教育の実践』くろしお出版
- 呉麗楠・磯村一弘・波多野博顕・金村久美・松田真希子（2016）「JFL 環境下での発音学習 ストラテジー使用と発音習得—中国の大学で学ぶ日本語学習者を対象に—」『音声研究』 20,1,6-15.
- スィリポンパイブーン・ユパカー（2008）「日本語アクセントの学習における自己モニターの有効性—タイ語母語話者に対するアンケートの分析から—」『音声研究』 12,2,17-29.
- 竹内理（2003）『より良い外国語学習方法を求めて』松柏社
- 谷部弘子・西沼行博・林明子（2010）「中国人日本語学習者にみる発話末韻律の知覚：イントネーションとリズムの聴取実験」『東京学芸大学紀要』61(2),279-288
- 戸田貴子（1999）「日本語学習者による外来語使用の実態とアクセント習得に関する考察— 英語・中国語・韓国語話者の会話データに基づいて—」『文藝言語研究』 36,86-111

- 戸田貴子（2006）『第二言語における発音習得プロセスの実証的研究』科学研究費補助金 研究成果報告書,9-68
- 張若星（2015）「中国人日本語学習者の日本語発音の評価：韻律的特徴を中心に」『言語文化共同研究プロジェクト』 47-56
- 劉佳琦（2010）「中国語母語話者（北京・上海出身者）による複合動詞の東京語アクセントの習得」『早稲田日本語教育学』 第8号,15-28
- Bongaerets, T（1999）Ultimate Attainment in L2 Pronunciation: The case of Very Advance Late L2 Learners, in Birdsong, D. (ed.) , Second Language Acquisition and the Critical Period Hypothesis, 133-159.
- Carroll, J. B., & Sapon, S. (1959) . Modern Language Aptitude Test—Form A. NY: Psychological Corporation.
- Moyer,A, (1999) Ultimate attainment in L2 phonology, Studies in Second Language Acquisition.

卷末資料 (中国語版)

姓名 _____ (昵称可)
 性別 男・女
 年齢 _____
 邮件地址 (必須) _____
 出身地域 / 使用方言 _____ 省 _____ 市 _____ / 方言
 日本滞在期间 (到现在) _____ 年 _____ 个月
 你在哪里学日语的? (中国) _____
 (学校名、教育机构名) (日本) _____
 日语学习年数 _____ 年 _____ 个月
 日语水平 _____ (例: N 1 合格)
 日语能力考试合格的人
 什么时候合格的? _____ 年
 你在日语学校或国内的大学教过日语吗? 教过・没教过
 「教过」的人
 在哪里教的? _____ 期間 _____ 年 _____ 月 or _____ 年至现在
 现在所属 (在日本) 大学 _____
 (博士・修士・研究生・本科生)
 语言 (日语) 学校 _____
 其他 _____
 现在所属 (在中国) 大学 _____
 (博士, 硕士, 本科生)
 其他 _____

1. 有没有因为你的发音错了或不好, 遇到过困难或吃过亏?
 有 · 没有
2. (选「有」的人) 是什么时候?
 和朋友聊天的时候 购物的时候
 想和日本人成为朋友的时候 找工作的时候
 打工的时候 办各类手续的时候
 在课堂发言的时候
 其他的时候 _____
3. 你练习发音的时候, 会模仿或参考什么样的日本人的发音? (可多选)
 周围的日本人 动画片里的人物
 电视剧里的人物 新闻主播 综艺节目里的人
 日语教课书的 CD
 其他 _____
 我不会模仿或参考
4. 学习或练习日语发音的时候, 你经常利用下列哪些途

- 径? (可多选) 并在下列方框中选出你是如何利用的。
 日语教课书 ()
 关于日语发音的教课书, 课本 ()
 动画片 ()
 新闻 ()
 连续剧, 电影 ()
 综艺节目 ()
 日语歌 ()
 其他 (是什么?) _____ ()

- 1) 只听
- 2) 出声读
- 3) 模仿发音
- 4) 跟着声音说
- 5) 只看
- 6) 唱
- 7) 听写
- 8) 比较原声发音和自己发音不同的地方

◆ 以下的问题、五个中请选一个认可的程度。

- | | | | | | |
|-------|---|---|---|---|------|
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ←非常认可 | | | | | 不认可→ |
5. 没有老师教发音也会好。
 5 4 3 2 1
 6. 我说日语的时候, 发音发得很好。
 5 4 3 2 1
 7. 我觉得像日本人一样发音很重要。
 5 4 3 2 1
 8. 如果我发音发得不好, 对方可能不能理解我的意图。
 5 4 3 2 1
 9. 不能发音标准的话会觉得不好意思。
 5 4 3 2 1
 10. 如果发音好, 周围的人对我的评价会很好。
 5 4 3 2 1
 11. 就算发音不好只要能沟通就可以了。
 5 4 3 2 1
 12. 如果发音不好, 不容易与日本人接近或亲近。
 5 4 3 2 1
 13. 如果发音不好, 很难融入日本社会。
 5 4 3 2 1

◆ 关于练习方法的频度 (根据你学日语的时候的情况) 回答下列问题。如果目前没在学习, 请按照以前的情况回

答。

- 5 4 3 2 1
←常常做 不做→
14. 注意自己的发音弱点说话。
5 4 3 2 1
15. 注意单词的音调发音。(音调：单词的发音的高低，强调。例如：「雨」和「飴」的读音一样，但是音调不同。「雨」是一声高词，「飴」是二声高词。)
5 4 3 2 1
16. 注意句子的语调发音。(语调：句子的音调的高低。例如：「是嘛! (附和)」和「是吗? (疑问)」, 语调不同，表达的语气不同。
5 4 3 2 1
17. 听日语母语者的关于发音的建议或说明之后，会注意自己的发音。
5 4 3 2 1
18. 对自己认为不好的发音直到自己满意为止，慢慢矫正正确。
5 4 3 2 1
19. 向别人请教发音方法。
5 4 3 2 1
20. 想起来练习的时候，会一个人进行发音练习。
5 4 3 2 1
21. 会用日语，自问自答，和自己说话练习。
5 4 3 2 1
22. 会问别人我的发音对不对。
5 4 3 2 1
23. 会录自己的发音，一边听一边练习。
5 4 3 2 1
24. 注意每一个发音，来进行发音练习。
5 4 3 2 1
25. 看着日本人的口型模仿。
5 4 3 2 1
26. 发音的时候会意识口腔内的器官的位置或发音方法。
5 4 3 2 1
27. 觉得发音不对或错的时候会再说一遍。
5 4 3 2 1
28. 比较母语和日语发音的相似点和不同点。
5 4 3 2 1
29. 不知道单词音调的时候，用词典等确认正确的音调。
5 4 3 2 1

感谢你的合作。

(日本語版)

- お名前 _____ (ニックネーム可)
性別 男・女
年齢 _____
☆メールアドレス (必須) _____
出身地域 / 使用方言 _____ / _____
日本滞在歴 _____ 年 _____ ヶ月
日本語をどこで勉強しましたか。(中国) _____
(学校名、教育機関名) (日本) _____
日本語学習年数 _____ 年 _____ ヶ月(全て合わせて)
日本語のレベルはどのくらいですか。
_____ (例：N1合格)
日本語能力試験のレベルを書いた方
いつ取得しましたか。 _____ 年
日本語学校や中国の大学などで、日本語を教えた経験が
ありますか。 はい・いいえ
→「はい」と答えた方
どこで教えましたか。 _____ 期間 _____ 年 _____ ヶ月
(*現在教えている場合、「ヶ月」の後に「～」とご記入
ください。)
現在どこに所属していますか。
(日本で) 大学名 _____
(博士課程・修士課程・研究生・学部生)
日本語学校名 _____
その他 _____
(中国で) 大学名 _____
(博士課程・修士課程・学部生)
その他 _____
1. 発音が間違っていたり、悪かったりして、困ったこと
や損をしたことがありますか。
ある ・ ない
2. (1で「ある」と答えた方) 困ったり、損をしたりす
ると思うのはどんな時ですか。(複数選択可)
友達と話す時 買い物をする時
日本人と友達になりたい時 就職する時
アルバイトをする時 手続きなどをする時
授業などで発言する時
その他(どんな時ですか? _____)
3. 発音を練習する時、どんな日本人の発音を真似したり
参考にしたりしますか。(複数回答可)
周りの日本人 アニメの登場人物
ドラマの登場人物 ニュースキャスター

25. 日本人の口元を見て発音を真似する。

5 4 3 2 1

26. 発音する時、舌や唇など口の中を意識して発音する。

5 4 3 2 1

27. 下手だと思ったり、間違えたと思ったりしたら、言い直して発音する。

5 4 3 2 1

28. 母語と日本語の発音の類似点・相違点を比較する。

5 4 3 2 1

29. アクセントが分からなかったら、辞書などで正しいアクセントを調べて確認する。

5 4 3 2 1

ご協力ありがとうございました。

Pronunciation acquisition of Japanese language learners by native Chinese speakers

Mako Suenobu

When we learn the second language, there are many proficiency differences between learners. Some learners can speak like native speakers, some learners still have the accent from their mother language. I suspect that the cause of their differences are the various "factors". This study describes the results and problems through two pilot surveys, and also describes the contents of main surveys. The first pilot survey used a questionnaire about learning strategies of pronunciations and tasks of Japanese pronunciation. These tasks asked the targets who are Chinese native speakers to read sentences and record them. The second pilot survey used two questionnaires. The first questionnaire is about strategies of Japanese pronunciation, and the second questionnaire is about beliefs about Japanese pronunciation. Through these two pilot surveys, the following four problems were found; 1. Because the targets are native Chinese speakers, the questionnaires should be written in Chinese. 2. Since Chinese language has many kinds of dialects and depends on them some pronunciations are difficult to master, the questionnaire should include questions about their dialects. 3. Questions about educational institution should be added, since their ability to master Japanese pronunciation may depend on their education institution. 4. Questions asking for detail as to what they use and how they do so when they practice their pronunciation of Japanese, such as textbooks, Japanese dramas or anime. Following these problems, I created the questionnaires for the main survey.